

2026.1.30 九州NPO支援ネットワークミーティング

# 「拠点」と「機能」の ハイブリッド支援戦略

～DX・プロボノと翻訳者としての使命～



特定非営利活動法人

佐賀県CSO推進機構

代表理事

秋山 翔太郎





# 組織の全体像

「現場」と「広域」を使い分けるハイブリッド戦略



特定非営利活動法人

佐賀県CSO推進機構



佐賀市市民活動プラザ

佐賀商工ビル 7階  
年間利用 約5.4万人



特定非営利活動法人 佐賀県CSO推進機構  
20周年記念祝賀会

佐賀県CSO推進機構  
法人設立20周年記念祝賀会

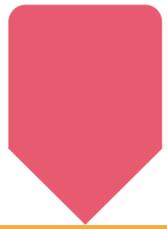
## 佐賀市市民活動プラザ（指定管理／現場）

- 役割：活動の拠点施設、市民とのタッチポイント、日常的な相談、ニーズの感知。
- 機能：相談窓口、施設提供（場、機器）、情報提供、研修・講座、交流機会。

## 佐賀県CSO推進機構（県域事業／機能）

- 役割：CSO経営支援、政策提言、高度な専門性。
- 機能：CSOマネジメントアカデミー、CSOポータル、地域づくりNW事務局、支援者NW（つよあた、事務支援）、さがボノ（プロボノ）。

「拠点」でニーズを感知し、「広域・専門機能」で解決策を提供する循環モデル



# 人材育成とネットワーク

現場の「交流」から、専門的な「経営」まで



特定非営利活動法人

佐賀県CSO推進機構

## Step 1：裾野を広げるプラザのソフト事業

事業：

- 人材育成（10回以上）：組織基盤強化研修（こなす力、つかむ力、伝える力、考える力、整える力）、社会課題別講座（今を知る、先を読む）
- 交流連携：交流ゼミナール5回、つながる交流会1回、さがのわ交流会1回

効果：孤立防止、モチベーション維持、顔の見える関係

## Step 2：頂を高める推進機構の経営支援

事業：

- CSOマネジメントアカデミー（県受託）：キックオフから最終報告会まで約7ヵ月間、参加団体は角組織課題に向き合う。事務局が会議に参加する等の伴走。
- 団体運営まるごと相談（助成事業）：税理士、労務士や専門支援員を県域で相談支援。出張相談あり。

効果：組織の持続可能性、ガバナンス強化



裾野を広げ、頂（いただき）を高める重層的な支援





# 情報基盤とDX（ツール）

届けるための「アナログ（対話）」と「デジタル（包摂）」



特定非営利活動法人

佐賀県CSO推進機構

## アナログの「深さ」と「安心感」

- 対面相談（プラザ相談窓口）
  - 膝を突き合わせた対話で、潜在的課題を引き出す。
  - 令和7年度は3名で210件超の相談。
- 相談ツール『立ち上げハンドブック』（助成事業）
  - 相談時に手渡し、想いを「カタチ」にする手引き。
  - Webが苦手な層にも、紙媒体で情報を届ける。
  - 行政、社協、中間支援組織等に配布。+Web公開。



## デジタルの「広がり」と「包摂」

- 多層的な情報発信（Web・メルマガ・SNS）
  - Push：週刊メルマガ（約800件弱）やSNSで、助成金・ボランティア情報を能動的に届ける。
  - Pull：プラザHPやCSOポータルで情報蓄積。
- オンライン支援（自主事業・有償）
  - 基盤：オンラインMTGルーム貸出（無償）
  - 技術：ハイブリッド・ライブ配信支援（有償）
    - 会場に来られない人への情報保障（包摂）を実現。
  - 実績：ルーム約50件/年、配信約25件/年





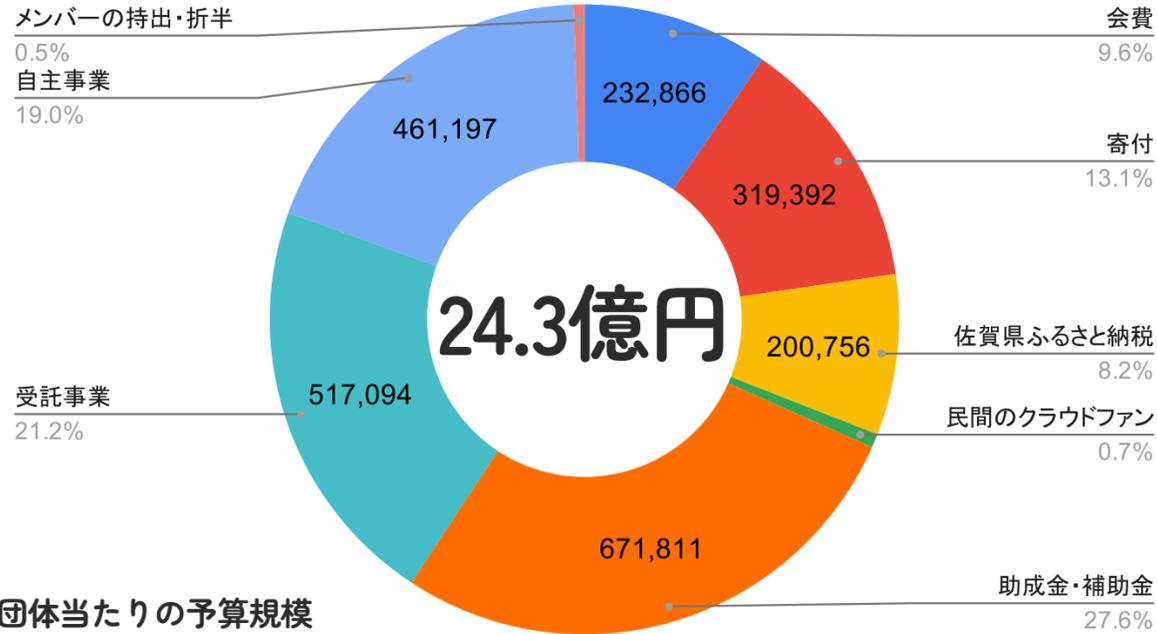
# 戦略の根拠（データ分析）

## データが示す「戦略」：資金はあるが、人がいない

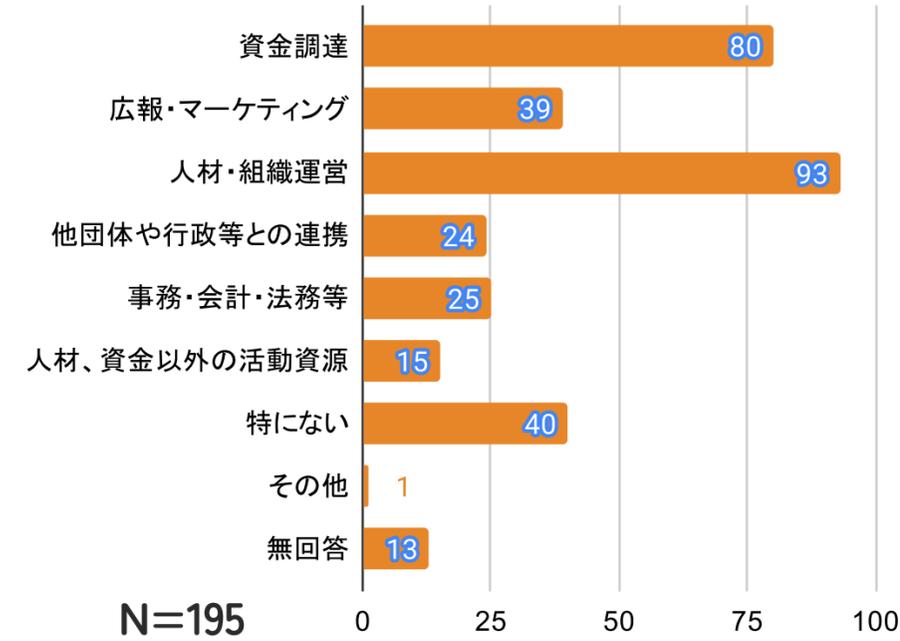
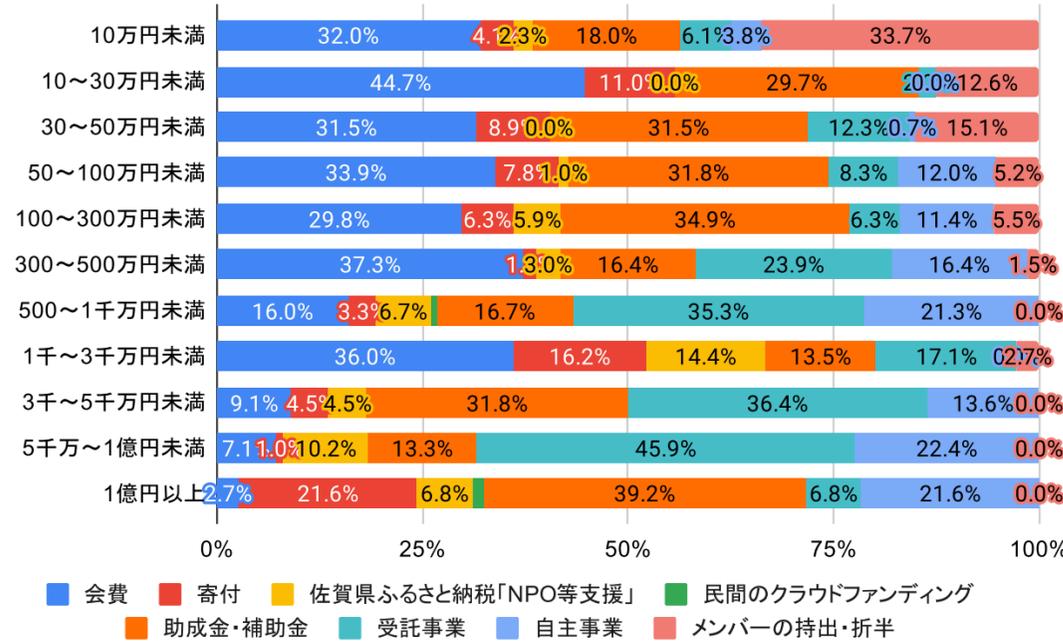


特定非営利活動法人

# 佐賀県CSO推進機構



1団体当たりの予算規模  
 佐賀 | 1,272万円 (1億未満平均 | 673万円)  
 全国 | 1,054万円 (1億未満平均 | 590万円)



## データが示す「佐賀のリアル」

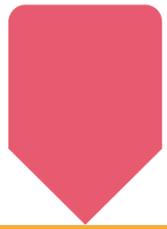
- (全国比較)
- 【強み】資金力：1団体あたりの予算規模・事業規模は比較的大きい（行政との協働、補助・助成金、ふるさと納税）。
  - 【弱み】人材難：「会員の高齢化」「後継者不在」が課題のトップ（アンケート回答の約5割）。

## 戦略的アプローチ

- 着眼点：資金はあるが、内部の人材では回らない
- 対応策
  - 業務のDX化（人がいなくても回る仕組み）
    - デジタルツールの導入支援。
  - プロボノ（外部人材の活用）
    - 内部採用ではなく、プロボノ人材を「プロジェクト単位」で導入。
    - 活用例：広報、事業計画、Web制作など



佐賀県誘致CSO第17号の認定NPO法人サービスグラント横道氏（左）山口祥義 佐賀県知事（中央）



# ビジョンとミッション（展望）

「翻訳者」として、自立と共助の生態系を創る



特定非営利活動法人

佐賀県CSO推進機構



## 自立した県民が支え合う社会

自立（経営力・精神的余裕）なくして、共助（支え合い）なし。  
孤立ではなく、支え合うことが重要。

### 社会の「翻訳者（トランスレーター）」

セクター間の「言葉の壁」「論理の壁」を越え、リソースをつなぐ。

• 行政の「公平性」⇔CSOの「想い」

• 企業の「経済合理性」⇔地域課題の「複雑性」

プロボノや協働において、相互の利益（Win-Win）を設計する。

九州全域で「翻訳機能」を磨き合いましょう！